

ウィキペディア

九份

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

九份（きゅうふん、ジョウフェン、チウフェン）は、台湾北部の港町基隆市の近郊、新北市瑞芳区に位置する山あいの町である。

目次

名称の由来

歷史

金鉱の町

觀光地化

風を聴く～台湾・九份物語～

沿革

アクセス

鐵道

路線バス

タクシー

高速バス

施設

宿泊施設

近隣の観光施設

画像

出典

外部リンク



九份のレトロな街並み（豎崎路）



昇平戲院



九份から見た海の眺め

名称の由来

九份という地名の由来はいくつかある。

- 台湾語では一般的に「九份」とは「開墾した土地の持分を9人で分けたもの」の意。
- 清朝初期に9世帯しかなく物を買うときにいつも「9つ分」と言っていたことから、ともいう。

台湾語ではカウフン (kau2-hun7)、あるいはカウフナ (kau2-hun7-a2)、中国語（台湾華語）ではジョウフェン、チウフェン（注音: ㄐㄧㄠˋ ㄈㄣˊ、拼音: Jiǔfèn）という。

歴史

金鉱の町

その昔、九份は台湾の一寒村に過ぎなかったが、19世紀末に金の採掘が開始されたことに伴い徐々に町が発展し、日本統治時代に藤田組によりその最盛期を迎えた。九份の街並みは、日本統治時代の面影を色濃くとどめており、路地や石段は当時に造られたものであり、酒家（料理店）などの建物が多数残されている。

しかし、第二次世界大戦後に金の採掘量が減り、1971年に金鉱が閉山されてから町は急速に衰退し、一時人々から忘れ去られた存在となっていた。

観光地化

1989年、それまでタブー視されてきた二・二八事件を正面から取り上げ、台湾で空前のヒットとなった映画『悲情城市』（侯孝賢監督）のロケ地となったことにより、再び脚光を浴びるようになる。映画を通じて、時間が止まったようなノスタルジックな風景に魅せられた若者を中心に多くの人々が訪れ、メディアにも取り上げられるなど、台湾では1990年代初頭に九份ブームが起こった。

ブームを受け、町おこしとして観光化に取り組んだ結果、現在では街路（基山街など）に「悲情城市」の名前を付けたレトロ調で洒落た喫茶店や茶藝館（ちゃげいかん）、みやげ物屋などが建ち並び、週末には台北などから訪れる多くの人々で賑わっている。また、世界の旅行ガイドブック（台北付近）にも多数紹介されており、今では台湾を代表する観光地のひとつとして定着している。

宮崎駿のアニメ映画『千と千尋の神隠し』のモデルになったという噂もあり、日本の観光客への知名度が高まったほかに台湾でも知られ、「神隠少女 湯婆婆的湯屋」の看板がモデルとされる茶屋のそばに掲げられている。一方、スタジオジブリや宮崎により、これは公式に否定されている^{[1][2][3]}。

2008年11月末、經濟部の中小企業処は「（民國）97年度革新科学技術の応用群聚計画」を実施し、九份地区に群聚のウェブサイト、無料の無線Wi-Fi（利用範囲は基山街と豎崎路の人気があるスポットの約90%を含む）、ネット商店、リアルタイム映像システム（九份風景と人潮および天気を見られる）、QRコードシステム（商店と商品の紹介）などの関連技術を導入し、古い町の九份でも現代的なデジタル技術を活用できるようになっている。

風を聴く〜台湾・九份物語〜

2007年秋に林雅行監督・脚本のドキュメンタリー映画『風を聴く〜台湾・九份物語〜』が公開された。



悲情城市の垂れ幕



夜の基山街



九份に残される坑口（台陽5番坑）

同作のナレーションを担当する一青妙と挿入歌として楽曲「大家（ダージャー）」を提供とした歌手一青窈の父親は九份の元金鉱主であり、一青姉妹にとって九份は亡き父の故郷に当たる。「大家」は亡くなった父親への想いを歌った曲である。

沿革

- 1903年11月1日 - 街庄長管轄区域改正より九份庄と金瓜石庄が合併し九份庄を新設。基隆庁基隆堡第三区所属。
- 1920年10月1日 - 地方制度改正より大字**九分**となる。台北州基隆郡瑞芳庄所属。
- 1933年12月16日- 大字**金瓜石**に改称。

アクセス

鉄道

台鉄宜蘭線 瑞芳駅 から路線バスかタクシー。☆

路線バス

- 台鉄宜蘭線 瑞芳駅から金瓜石行きバス（番号788、825[休日運転]）、福隆遊客中心行きバス（台湾好行黄金福隆線、番号856）で約20分。
- 台鉄縦貫線 基隆駅から金瓜石行きバス（番号788）で約1時間。「九份老街」バス停車（856は「九份」バス停車）。

タクシー

- 台北市内から約1200元（日本円で約4500円 ※2017年8月現在レート）
- 台鉄宜蘭線 瑞芳駅から205元（一律の協定価格 ※2017年8月現在）

高速バス

- 基隆客運 金瓜石行き（番号1062）
 - 台北中崙 - 捷運（MRT）忠孝復興駅 - 台鉄松山駅前 - 台鉄瑞芳駅 - 九份老街 - 金瓜石
- 台北客運 金瓜石行き（番号965）
 - 府中路（捷運府中駅（1番出口）） - 板橋公車站2番乗り場（捷運・台鉄・高鉄板橋駅） - 萬華車站（台鉄萬華駅） - 捷運西門駅（2番出口、國軍文藝活動中心前） - 捷運北門駅（2番出口桃園機場捷運 台北車站） - 台鉄瑞芳駅 - 九份老街 - 金瓜石



日本語表記に対応した台北客運965路のバス

施設

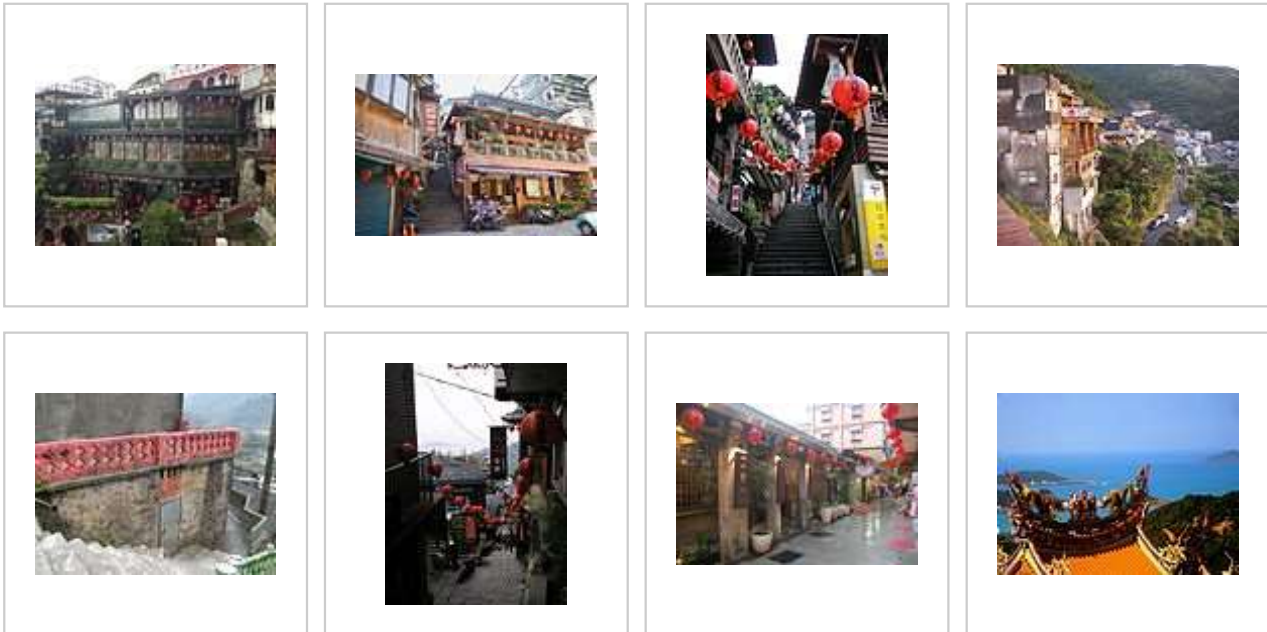
宿泊施設

九份にはホテル（中国語で飯店、旅社）がなく、宿泊施設は主に民宿である。

近隣の観光施設

- 金瓜石黄金博物園區

画像



出典

1. [^] 【FOCUS新聞】TVBS專訪宮崎駿 72歲不老頑童 (<https://www.youtube.com/watch?v=XJ9BnbkRzOg>)（3分頃より）
2. [^] スタジオジブリ公式サイト「作品の舞台はどこですか？」 (<http://www.ghibli.jp/40qa/00026.html>)
3. [^] いつものジブリ日誌 (<http://www.ghibli.jp/15diary/000060.html>) 2003年1月09日

外部リンク

- 九份(日本語) (<https://trippers.info/taiwan/taipei/0002>)
- 新北市政府観光旅遊局 - 九份老街 (日本語) (http://tour.ntpc.gov.tw/ja-jp/Attraction/Detail?wnd_id=115&id=111871) (中国語) (http://tour.ntpc.gov.tw/zh-tw/Attraction/Detail?wnd_id=60&id=109990)

- [九份の楽しみ方-台北ナビ \(http://www.taipeinavi.com/special/5028949\)](http://www.taipeinavi.com/special/5028949)
-  [ウィキトラベル](https://wikitravel.org/ja/九份)には、[九份](https://wikitravel.org/ja/九份) (<https://wikitravel.org/ja/九份>)に関する旅行ガイドがあります。

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=九份&oldid=81288700>」から取得

最終更新 2021年1月11日 (月) 14:22（日時は個人設定で未設定ならばUTC）。

テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は利用規約を参照してください。